

◆ 特別掲載 ◆

ISSB基準セミナーシリーズ 2023

シリーズ企画の狙い

井 口 譲 二 CMA

(日本証券アナリスト協会 サステナビリティ報告研究会座長)

目 次

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. はじめに | 3. ISSB基準セミナーシリーズの概要 |
| 2. ISSB基準セミナーシリーズの狙い | 4. おわりに |

1. はじめに

日本証券アナリスト協会（以下、アナリスト協会）は、IFRS財団アジア・オセアニアオフィスの協力を得て、「ISSB基準セミナーシリーズ2023—サステナビリティ情報開示の進展と企業価値向上のための対話—」（注1）を2023年8月から開催している。本稿では、その狙いと概要について説明したい。

なお、アナリスト協会は、アナリスト・投資家（以下、アナリスト等）の業務におけるサステナビリティ情報の重要度の高まりに鑑み、2021年3月に、投資家などの実務家、学識経験者および公認会計士から構成される「サステナビリティ報告研究会」を設置した（注2）。すでに、国際サステナビリティ基準審議会（以下、ISSB）に対し、複数の意見発信を行っており、ISSBから日本の利用者代表として意見聴取も受けている（注3）。

2. ISSB基準セミナーシリーズの狙い

当シリーズの狙いは、サステナビリティ情報開示の基準化を巡る議論が急速に進展する中、ESGアナリストだけではなく、ESG分野を専門にしないアナリスト等が、IFRSサステナビリティ開示基準（以下、ISSB基準）に基づいて開示される情報を理解し、企業分析・投資判断に活用できるようサポートすることである。

(1) 背景

2023年6月に、初のISSB基準であるIFRS S1号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」（以下、S1）とIFRS S2号「気候関連開示」（以下、S2）が公表された。日本では、サステナビリティ基準委員会（以下、SSBJ）が、サステナビリティ開示基準の開発を行うことになるが、SSBJは、国際的な整合性を重視し、S1とS2に相当する国内の確定基準を2025年3月までに公表するとしている。ISSB基

（注1） 本セミナーシリーズ特設サイト：<https://event.saa.or.jp/event/7293>

（注2） サステナビリティ報告研究会名簿：https://www.saa.or.jp/apps/list/com_meibo_120.html

（注3） 同研究会の意見発信：<https://www.saa.or.jp/standards/sustainability/questionnaire/index.html>